

ステキな景色をパシャリ／

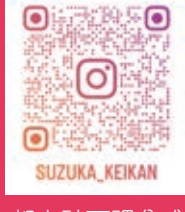
#自分だけの

1コマ

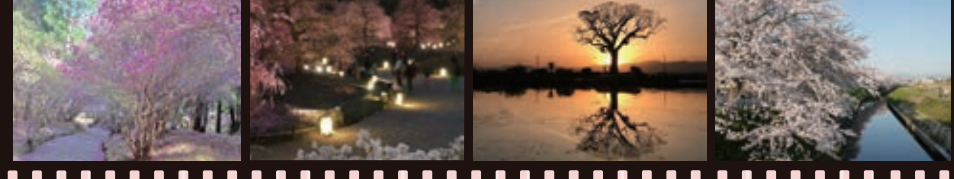
市内で見かけるさまざまな景色。一人一人、お気に入りの景観があるはず。鈴鹿市景観計画の改定にあたり募集した「自分だけの1コマ」写真の中から、魅力あふれる市内の景観写真を紹介しています。

「ステキな景色をパシャリ#自分だけの1コマ」は、今回で終了します。ご愛読ありがとうございました。

Instagramは継続しますので、引き続きご覧ください。



都市計画課公式
Instagram



ひとまちモータースポーツ

「犬がいた季節」 —F1日本GPに重なる青春物語—

かつて三重県立四日市高校に“住んでいた”実在の犬「コーシロー」を中心に、同校で学園生活を過ごした生徒たちの青春を描いた小説「犬がいた季節」(伊吹有喜著)をご存じでしょうか。

物語は、昭和・平成から令和へと移りゆく時代ごとに6つのエピソードで構成されており、その第2話が1991(平成3)年のF1日本グランプリを舞台とした「セナと走った日」です。

卒業を半年後に控えたF1ファンの2人の生徒が、夜明け前に自転車で四日市を出発し、20kmほど先の鈴鹿サーキットへ向かい、テント泊でF1日本グランプリを3日間観戦するのですが、彼らの興奮ぶりはもとより、実際のレース展開やマシン・ドライバーなど、当時の空気感が生き生きと描かれています。

そしてこのエピソードは、他の5話と共に最後に一つにつながり、温かく優しい大団円を迎えるのです。誰もが青春時代に抱いた、かけがえのない純粋な気持ちを思い出させる素晴らしい作品です。



なかの よしげ

■中野能成 (鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



先日、見通しの悪い道で車を運転していると、ヘルメットをかぶった中学生くらいの男の子3人が左側前方で顔だけ出しているのが見えたので、一旦停止しました。それに気付いた男の子たちが、会釈をして道路を渡り走っていく姿を見て、そのときは礼儀正しい子どもたちだなと思ったくらいでした。

後日、特集の取材で、小学校の交通安全教室を撮影しながら指導員の話を知っていると、交差点で発進するときは「前に乗り出して右左の安全確認をすること」と指導していました。このときハッと思い返したのは前述の男の子たち。ここで学んだことをしっかり守っていたんだと感心しました。

「教室で伝えたことを、子どもたちが日常生活で実践しているのを見掛けるとうれしい」という指導員の言葉そのままに、安全運転の心掛けが鈴鹿のまちに広がっていることを実感しました。(由)